

考察

1 「麹町小学校に対するアンケート調査」(全保護者対象)について

項目「1」「2」「3」「4」「5」「6」については、「あてはまる」と「だいたいあてはまる」の割合が90%を越えている。特に項目「3」と「5」については、昨年度は「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の割合が15%を越えていたが、今年度は6~7%に減っている。このことから、学校の教育目標や保護者への文書、連絡の取り方等については概ね分かりやすく伝わっており、また、楽しく分かりやすい授業も充実してきたものと考え。特に、授業については、個に応じた丁寧な指導を心がけてきたことで、児童一人一人に基礎的・基本的な学力が身に付いてきたと言える。

項目「9」については、「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の割合が10%を割っている。昨年度は15%を超えていたことから、夏季休業中の学力育成教室を増やしたり、一人一人に応じて個別に対応して指導してきたことが要因と考える。

項目「11」については、「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の割合が、昨年度よりも減ってはきているものの、16%と高い数字となっている。宿題や課題については、「多い」「少ない」の両方の意見があると予想される。学年・学級によって学習内容等から量の多少はあるが、学校としてもその在り方を検討しながら、共通の宿題や課題を出す場合には、工夫をしながら家庭学習を充実したものになるように検討していきたい。

項目「13」については、「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の割合が、14%と他の項目に比べ比較的高い。外国語教育を中心に国際教育は行っているが、学校公開など保護者が参観できる機会が少ないので、活動の実態が見えないことが一因であると考えられる。外国人講師の来校日の調整ができれば、参観できるようにしていくことも必要である。

項目「18」については、「あてはまる」の割合が60%を越えている。行事や学校公開等を通して子どもたちの様子は分かりやすいと感じていただいていると思われる。

項目「7」「12」「16」「17」については、「わからない」の割合が10%以上と高い。それぞれの項目が保護者にはわかりづらい部分があるのが原因と考える。項目「7」「16」については、子どもの問題や悩みやトラブル等、未然に防ぐための工夫や対応を学校がどのように行っているか保護者に発信していくことを今後は心がけていかなければならない。

項目「12」について、「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の割合が11%、「わからない」の割合が15%と高く、学校公開などで図書室やコンピュータ室を活用した授業も参観できるようにしていくことも必要と思われる。

2 「授業や生活についてのアンケート調査」(5・6年児童)対象について

質問1については、概ねどの教科・領域とも「よくわかる」「わかる」の割合が90%を超えている。今後も児童の興味・関心を引き出し、一人一人の児童が意欲的に学習に取り組めるような授業を展開していきたい。

質問1の「理科」については、校内研究で取り組んでいるにも関わらず、1割近い児童が「あまりわからない」「わからない」と回答している。体験的な活動や主体性を促す活動を通して、実感を伴った理解の定着を一層図っていきたい。

質問2の項目「4」で、授業に集中して意欲的に取り組んでいる児童が多いことが分かる。ただ、授業に「あまり集中していない」「集中していない」が2割近くに上る。このことから興味・関心を高めるための授業づくりを一層努力する必要がある。

質問2の項目「5」については、発言を積極的にできる児童が半数以上いる一方、そうでない児童も高い数字を示している。このことから、今後も児童一人一人の発言を大切にし、どんなことでも言い合える学級の雰囲気を作るとともに、児童が発言をしたくなるような授業を展開できるように教員一人一人研修を深めていくようにする。

質問3の項目「1」については、「とても楽しい」「楽しい」と答える児童が90%近くおり、高い数字を示しているが、そうでない児童も昨年度に引き続き10%近くいる。また、質問3の項目「2」についても「よくある」「ときどきある」が40%を超えている。高学年なので、その割合も多くなっていると考えられるが、「楽しくない」「行きたくない」原因について分析し、一人一人の児童の心のつばやきに耳を傾けることを心がけるようにしたい。

質問3の項目「3」で、半数近くの児童が「親」を相談する相手に選んでいる。また、先生の割合が8%しかいなかった。また、悩みを相談できる人がいない児童が約1割いる。悩み自体がないという児童も含まれていると考えられるが、一人で悩まずに相談できる環境を家庭と協力して作り上げていく必要がある。

